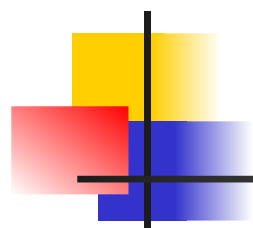


第14回ユースフォーラム報告

- 1 日 時
平成25年10月19日(土) 13:00
~20日(日) 12:00
- 2 場 所
宮城県仙台市(東日本大震災被災地)
- 3 参加者
中村 修治(連合長崎青年委員会事務局長/電力総連)



報告内容

- 1 被災地視察報告
- 2 班別学習報告
- 3 震災当時の被災地について

1 被災地視察報告

～仙台市若林区荒浜地区～



MEMO

- ・5～6mの津波によってほとんどの家が流された。
- ・宮城県内の瓦礫の撤去は95%終わっているものの、家屋の基礎は未だ残っている。
- ・震災により宮城県で発生した瓦礫は、宮城県内で1年に発生する産業廃棄物の約15倍にあたる1460万トン。
- ・震災前荒浜地区に住んでいた人は、今でも仮設住宅で暮らしている。

1 被災地視察報告

荒浜小学校 ～仙台市若林区荒浜地区～



MEMO

- ・屋上に避難した先生・生徒は助かったが、家に帰った生徒は、ほとんど津波に飲まれ亡くなられた。
- ・屋上に避難しても、低体温で亡くなられた方が多かった。
- ・現在は緊急避難所としてしか使われていない。

1 被災地視察報告

荒浜海水浴場 ～仙台市若林区荒浜地区～



MEMO

・荒浜海水浴場近くにあったコンビニエンスストアは、うきわ等の海水浴グッズも販売されており、多くの海水浴客が訪れていたが、今では復旧作業に携わる人が主に利用するようになった。

・防災林は津波によってほとんど流された。

1 被災地視察報告

～名取市閑上地区～



MEMO

- ・津波によりガードレールが破損
- ・震災当時、道路は車で渋滞し、車に引かれ亡くなられた人も数多くいる。
- ・チリ大地震の際に津波が来なかったことから、津波対策(防波堤の建設・嵩上げ等)は実施されなかった。

1 被災地視察報告

関上中学校 ～名取市関上地区～



MEMO

- 時計は、地震発生時刻の2時46分で止まっている。
- 亡くなられた生徒へのメッセージが机に書かれている。
- 現在、荒浜小学校同様、緊急避難所としてしか使われていない。

1 被災地視察報告

閑上仮設店舗(さいかい市場)

～名取市閑上地区～



MEMO

- ・「さいかい市場」とは、事業の「再開」、お客様との「再会」を目指し、1日も早い復興への決意が込められている。
- ・仮設店舗には、鮮魚店、飲食店、酒店等24店舗7事業所が商店街に軒を連ねている。

1 被災地視察報告

千年希望の丘 ～岩沼市～



MEMO

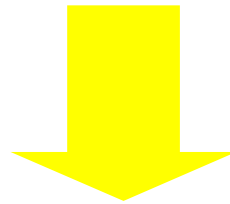
- 多くの国内外の企業・団体・個人からの応援寄付金を活用し整備された。
- 地域住民の地道な作業により、3万本の植樹が行われた。
- 「千年希望の丘」とは、千年経っても、子供たちを津波から守り、震災の教訓を千年先まで伝えていく意味が込められている。

2 班別学習報告

～青年の立場でできること、防災体制の強化に向けて～

①住民の防災意識向上

○ 地震発生後、車で避難し、津波に飲まれ亡くなられた



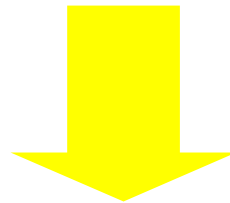
- ・設備的な対策を実施しても、災害時にとるべき行動が間違っている意味がない
- ・可能であれば被災当時の声や体験を聞く機会を設けてはどうか

2 班別学習報告

～青年の立場でできること、防災体制の強化に向けて～

②地域コミュニティの強化

- 防災体制強化には、地域の連携・強化が必要不可欠
⇒ 現代、地域の連携は希薄となっている・・・



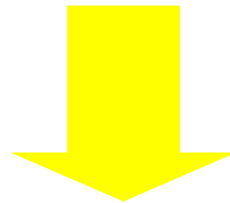
防災訓練等、防災体制強化にとらわれず、地域の連携・つながりを強化する活動を進めていくべきではないか。

2 班別学習報告

～青年の立場でできること、防災体制の強化に向けて～

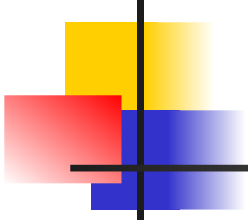
③個人、遠方からの支援

- 災害が発生しても、遠方から被災地にボランティア等で行くことは、なかなかできない



- ・空缶のプルタブの回収(800kgで一台の車椅子に)
- ・被災地視察の内容報告(本フォーラムの内容報告)
⇒ 被災地の現状を知ってもらい、支援の輪を広げる

3 震災当時の被災地について



～被災地の本当の現状とは～

- ① ボランティアを受け入れる体制が整っていなかった。
- ② 被災地へ多くの支援物資が届いたが、不要な物が多く、保管場所がなくなるケースも・・・

⇒ 被災地の状況に応じた物資を送ることが必要！！

3 震災当時の被災地について

～支援物資として何を送ればよいか～

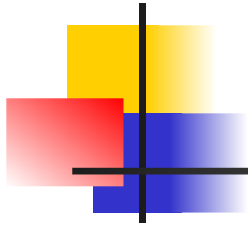
【震災直後】

- ・生活必需品(タオル、ティッシュ、トイレットペーパー等)
- ・防寒対策用品(防寒着、カイロ等)

【仮設住宅整備後】

- ・娯楽品(テレビ、本等)
- ・子供の勉強机、サッカーボール等のスポーツ用品

4 所感



○ 復興、防災体制強化に向けては、組合、会社、地域の仲間意識・人と人とのつながりの強化が最も重要

○ 連合長崎青年委員会としては、出身組織・単組関係なく交流、付き合える仲間作り、仲間意識の向上を図れるような活動を展開していきたい。

ご清聴ありがとうございました＼(^-^)/

